

# 「正倉院学術シンポジウム」の記録

平成十七年十一月三日、当館の会議室において「正倉院学術シンポジウム」が開催された。この企画は、正倉院に縁の深い三つの機関（宮内庁正倉院事務所、東大寺および当館）の研究者が集まり、宝物の調査・研究の第一線について互いの認識を深めることを目的としたものである。第五十七回正倉院展の会期中のこともあり、一般公開のかたちをとらず、参加者は関係諸分野の研究者のみであった。個別の研究報告および討論とも充実した内容であり、諸方面からの関心も高いと思われ、ここに全記録を掲載することにした。なお、研究報告については、当日の報告内容にもとづき、各報告者に文章原稿をまとめていただいた。

## 正倉院学術シンポジウム

日時 平成十七年十一月三日(祝) 午後一時三〇分～五時  
主催 奈良国立博物館  
後援 読売新聞大阪本社  
会場 奈良国立博物館 会議室  
テーマ 「正倉院研究の現在」

## スケジュール

一時三〇分 開会挨拶 北啓太（宮内庁正倉院事務所長）  
一時四〇分～三時四五分 研究報告

### ① 「北倉の楽器」

内藤栄（奈良国立博物館学芸課工芸考古室長）

### ② 「黄銅合子の模造で得た新知見―正倉院宝物模造の意義」

西川明彦（宮内庁正倉院事務所保存課整理室長）

### ③ 「正倉院事務所における近年の調査」

杉本一樹（宮内庁正倉院事務所保存課長）

### ④ 「弘化四年東大寺宝物帳にみる正倉院宝物」

森本公誠（華嚴宗管長・東大寺別当）

四時～五時 全体討論

五時 閉会挨拶 湯山賢一（奈良国立博物館長）

※司会進行 戸田聡（読売新聞大阪本社記者）